2014.2.14

おかげさまで、もうすぐ百周年、ワクワクするミライへ！

岡部株式会社
（証券コード 5959）

中期経営計画「okabe-ミライ計画-2017」について

当社グループは、2012 年度を初年度とする6ヵ年経営計画「okabe-1番星★Plan-2017」を策定し、今日までのおよそ2年間、主力製品のシェア向上と経営基盤の強化に取り組んでまいりました。こうした取り組みが実を結び、2013 年 12 月期の連結経常利益は従来の最高益を 10 億円以上上回る、65 億 8 千 8 百万円を達成いたしました。

このように業績面では極めて好調な結果となりましたが、今後さらなる成長を遂げるためには、国内建設部門において、生産機能の強化が喫緊の課題となっております。また、2020 年に開催される東京オリンピック「後」に予想される建設需要の停滞を見越し、新市場、新分野への挑戦の手も緩めるわけにはまいりません。

新たな指針となる「okabe-ミライ計画-2017」の下、創業百周年、そしてその先の「ワクワクするミライ」に向け挑戦を続ける、okabe にご期待ください。

「okabe-ミライ計画-2017」の骨子

ビジョン1　ミライを支える「新工場」

コア事業・準コア事業において、3つの新工場がしっかりと成長を支えます。

主な施策	
	【国内建設】 構造機材製品の新工場を建設し、生産体制を強化いたします。
	【米国建設】 米国に仮設・型枠製品の生産拠点を確保するため、自社工場の建設または現地メーカーのM&Aを実施いたします。
	【自　動　車】 WG社中国工場の本格稼働により、現地の旺盛な需要を取り込みます。

ビジョン2　ミライに羽ばたく「新製品」

コア事業・準コア事業において、成長分野に新製品を投入し、市場シェアを拡大します。

主な施策	
	【建設・自動車】 米国において成長軌道に乗るOCM社、中国においてバッテリー部品の生産を開始したWG社など、コア・準コア事業における海外展開を加速するため、各国のニーズに合わせた「地域デザイン製品」を投入いたします。
	【国内建設】 中長期的な成長が見込まれる耐震・免震・制震分野において、複数の新製品を市場に投入し、新製品による売上高 20 億円以上を獲得いたします。
	【国内建設】 製品開発の拠点として、動的実験設備など最新の設備を備えた「総合実験センター」を新設し、開発の高度化・迅速化を実現します。

ビジョン3　ミライを創る「新分野」

これまで蓄積した技術・ノウハウを洗い出し、活かすことができる新分野へと果敢に挑戦します。

主な施策	
	【新　分　野】 「ワクワクする未来を創造しよう！」をスローガンに、様々なテーマに取り組む「未来プロジェクト」が始動しました。国内外から集結した若手社員がチームを組み、経営陣と一体となって新分野を切り開きます。
	【海　　洋】 海洋事業を主力事業へと育成すべく、海外向け小型浮魚礁のビジネスをさらに拡大するとともに、当社独自の藻場造成技術を応用した「稚魚を育てる」新型魚礁をラインナップに加え、差別化を進めてまいります。

（以下の説明は、特に断りの無い限り連結を基準にしております。）

Ⅰ．目標とする経営指標

創業百周年となる 2017 年 12 月期に、経常利益 100 億円の達成を目標といたします。

【4年後（2017 年 12 月期）のセグメント別業績目標】

【単位：百万円】

	建設関連製品事業	自動車関連製品事業	ホテル事業	その他の事業	合　計
売上高	72,000	12,500	6,500	4,000	95,000
営業利益	7,500	1,600	550	350	10,000
（率）	10.4%	12.8%	8.5%	8.8%	10.5%
経常利益					10,000
（率）					10.5%
当期純利益					6,000
（率）					6.3%
総資産					93,000
ＲＯＡ					10.8%

（注）①「その他の事業」の主な内容は、海洋事業、釣り用錘事業です。
②当社は、「ROA」を【経常利益／期末総資産】にて算出しております。
③「総資産」は、2017 年 12 月期における推定値を採用しております。
④セグメント別の経常利益、当期純利益は現在公表しておりません。

【4年間の推移】

【単位：百万円】

	2013年実績	2014年予想	2015年予想	2016年予想	2017年予想（創業百周年）
売上高	62,736	69,000	77,000	86,000	95,000
営業利益	6,386	7,150	8,000	8,900	10,000
（率）	10.2%	10.4%	10.4%	10.3%	10.5%
経常利益	6,588	7,200	8,000	9,000	10,000
（率）	10.5%	10.4%	10.4%	10.5%	10.5%
当期純利益	3,911	4,400	4,900	5,450	6,000
（率）	6.2%	6.4%	6.4%	6.3%	6.3%

Ⅱ．利益還元、配当政策

当社グループは、株主の皆様への利益還元を充実させるため、安定的な配当を継続することを基本とし、連結業績を考慮し、併せて企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保の充実などを勘案して決定する方針を採用してまいります。

Ⅲ. セグメント別成長戦略

1. 建設関連製品事業・・・さらなる市場シェア拡大を図るべく、国内および米国において新工場を稼働

1）主な施策

✧ 省力化製品や、耐震・免震・制震関連製品の需要が高まる国内市場においては、以下の 3 つの施策により、市場シェアの拡大を図り、トップメーカーとしての地位を盤石なものといたします。

①2015 年末の稼働を目指し、当社としては過去最大の規模となる構造機材製品の新工場を建設いたします。新工場においては、当社が培った金属加工ノウハウを総動員したラインを整備することで生産効率を飛躍的に高め、生産コスト・在庫コストの圧縮や、納期短縮等の顧客サービスの向上に繋げてまいります。

②中長期的な成長が見込まれる耐震・免震・制震分野においては、社内の開発資源を集中投下するとともに、産学連携、産産連携（アライアンス）、革新技術を保有する企業のM＆A等の手段を活用して開発期間の短縮を図り、複数の新製品を市場投入することで、2017 年 12 月期までに新製品による売上高 20 億円以上を獲得いたします。

③製品開発の高度化・迅速化を進めるため、2017 年末までに新たな製品開発の拠点として「総合実験センター」を新設いたします。総合実験センターにおいては、現在保有する耐震製品向けの実験設備に加え、免震・制震関連製品の開発に不可欠な動的実験を行う振動台設備を設置するほか、戸建木造製品向けの実験設備や、省力化製品のニーズが高まる仮設・型枠製品、土木製品向けの実験設備の充実を図る予定です。

✧ 着実に足場を築きつつある海外市場においては、以下の施策を進めてまいります。

①米国では、OCM社の売上高が 2013 年 12 月期に 21 億円（対前年 57.2%増）となるなど存在感を示しております。この成長を加速し、2017 年 12 月期に 50 億円の売上を達成するため、自社工場の建設または現地メーカーのM＆Aにより、米国内における仮設・型枠製品の生産拠点を確保いたします。

②米国OCM社のほか、中国においてもグループ子会社の岡部（上海）商貿有限公司が現地企業への販路開拓に成功するなど、当社グループの建設関連製品事業は、海外市場において着実に足場を築きつつあります。こうした取り組みを後押しすべく、現地技術部門の体制を強化して各国の建設市場のニーズに合わせた「地域デザイン製品」を開発してまいります。

2）業績目標

【単位：百万円】

	2013年実績	2014年予想	2015年予想	2016年予想	2017年予想（創業百周年）
売上高	48,777	53,140	59,000	65,500	72,000
-仮設・型枠製品	7,776	8,930	10,000	11,000	12,000
-土木製品	6,069	6,220	6,500	6,800	7,000
-構造機材製品	21,030	23,240	26,200	29,700	33,000
-建材商品	13,900	14,750	16,300	18,000	20,000
営業利益	5,182	5,660	6,200	6,800	7,500
（率）	10.6%	10.7%	10.5%	10.4%	10.4%

2. 自動車関連製品事業・・・世界市場シェア 50%の獲得を目指し、生産・営業・開発体制を充実

1）主な施策

✧ WG社の主力製品であるバッテリー端子製品は、世界最大の自動車生産国となった中国をはじめ、新興国におけるモータリゼーションの進展とともに、さらなる需要の拡大が見込まれております。WG社では、2017 年 12 月期までに世界シェアを現在の 35%から 50%に拡大することを目標に掲げ、以下の施策を進めてまいります。

①2013 年 8 月、WG 社のノウハウを結集した生産設備と最新の環境設備を備えた中国工場が竣工いたしました。WG社製品の高い品質は現地企業を含む多数の顧客から注目を集めております。今後、新工場の稼働をテコに、現地の旺盛な需要を取り込んでまいります。

②WG社の強みは、顧客であるバッテリーメーカーと緊密なコミュニケーションを取りながら、部品の素材・形状等の改善を進めていくことができる「技術提案力」にあります。最重要市場である中国においても、技術者の現地採用を拡大するなど、技術提案力の強化を進めてまいります。

③2014 年 1 月、マザー工場である米国工場（ミネソタ州）の隣接地に研究開発センターが完成し、運用を開始いたしました。米国・イタリア・中国の3工場の情報・ノウハウを集約し、WG社の生産技術、環境技術、そして技術提案力を革新してまいります。

2）業績目標

【単位：百万円】

	2013年実績	2014年予想	2015年予想	2016年予想	2017年予想（創業百周年）
売 上 高	7,318	8,350	9,600	11,000	12,500
営業利益	1,015	1,100	1,250	1,420	1,600
（率）	13.9%	13.2%	13.0%	12.9%	12.8%

3. ホテル事業・・・「コーストホテル」ブランドの再構築を推進し、新たな顧客を開拓

1）主な施策

✧ 「コーストホテル」ブランドにより、カナダ・米国を中心に直営・マネジメント・フランチャイズを合わせて 39 ホテルを展開するホテル事業においては、「Stepping Up(さらなる向上)」をテーマに、ブランドの強化を進めてまいります。39 ホテル全体で設備や接客サービスの改善に取り組むほか、予約システムなど現場を支える本社機能を充実させ、くつろぎを提供するフルサービスのホテルブランドとして、他チェーンとの差別化を進めてまいります。

2）業績目標

【単位：百万円】

	2013年実績	2014年予想	2015年予想	2016年予想	2017年予想（創業百周年）
売 上 高	5,280	5,750	6,000	6,300	6,500
営業利益	95	220	330	400	550
（率）	1.8%	3.8%	5.5%	6.3%	8.5%

4. その他の事業（海洋事業）・・・国内外のニーズを掘り起こし、2017 年 12 月期に独立セグメントへ格上げ

1）主な施策

✧ 美味しくヘルシーな和食ブーム等を背景に、水産資源のニーズが世界的に高まっております。海洋事業においては、主力の浮魚礁製品が国内市場の 7 割のシェアを占めるなど、強みである技術力を活かし一定の存在感を示しておりますが、海外市場や浮魚礁以外の分野に進出することで、さらなる成長が期待できます。以下の施策を実行して国内外のニーズを掘り起こし、2017 年 12 月期までに建設・自動車・ホテルに次ぐ、独立セグメントへの格上げを目指します。

①多数のセンサーを備えた高機能な浮魚礁が求められる国内と異なり、海外においては近海漁業やレジャーフィッシングに向けた小型浮魚礁のニーズが高まっております。既に豪州向けに販売を開始した小型浮魚礁は顧客より大変高く評価されておりますが、今後、豪州のビジネスモデルを他地域に展開することで、2017 年 12 月期までに海洋事業の海外売上比率を 20%まで高めます。

②応用藻類学研究所（島根県隠岐郡海士町）において、従来の「魚を集める」タイプの魚礁ではなく、当社独自の藻場造成技術を応用し、「稚魚を育てる」タイプの新型魚礁を開発し、差別化を進めてまいります。

2）業績目標

【単位：百万円】

	2013年実績	2014年予想	2015年予想	2016年予想	2017年予想（創業百周年）
売 上 高	1,360	1,760	2,400	3,200	4,000
営業利益	92	170	220	280	350
(率)	6.8%	9.7%	9.2%	8.8%	8.8%

5. その他の取り組み・・・・・「未来プロジェクト」が始動

✧ 当社グループ内には、これまで蓄積した技術・ノウハウや余力のある設備など、有形無形の資産が存在しております。これらの資産を、新たな収益の柱となる事業の創出や社会貢献等に活用すべく、「ワクワクする未来を創造しよう！」をスローガンに、「未来プロジェクト」が始動いたしました。
未来プロジェクトでは、66 名の若手社員が公式な組織の枠にとらわれない 13 のチームを組み、経営陣と一体となって様々なテーマに取り組んでまいります。

Ⅳ. 投資計画(4 年間)

1. 設備投資・・・・・・・・約 150 億円

- 建設関連製品事業
  - ✧ 国内:構造機材製品の新工場(土地含む) ---------- 55 億円
  - ✧ 米国:OCM社(生産拠点整備) ---------- 10 億円
  - ✧ 国内:総合実験センター ---------- 15 億円
  - ✧ 研究開発投資 ---------- 20 億円
  - ✧ その他(国内更新投資等) ---------- 10 億円

  建設関連製品事業 計 約 110 億円

- 自動車関連製品事業
  - ✧ 研究開発投資 ---------- 10 億円
  - ✧ その他(米国・イタリア更新投資、中国追加設備等) ---------- 10 億円

  自動車関連製品事業 計 約 20 億円

- ホテル・海洋・その他
  - ✧ ホテル関連投資(改修・Web システム等) ---------- 15 億円
  - ✧ その他(海洋関連、未来プロジェクト等) ---------- 5 億円

  そ の 他 計 約 20 億円

2. M&A関連投資・・・約 150 億円

- 各事業の成長戦略に合致する企業数社に対する買収・出資を想定しており、投資額は 4 年間で 150 億円程度を想定しております。

3. 投資資金と資金調達

- 4 年間に約 300 億円の投資を実施した場合、その所要資金の調達はおおよそ次のように想定しております。
  - ✧ 4 年間に得る事業収益(配当金控除後) ---------- 約 150 億円
  - ✧ 4 年間の減価償却費---------- 約 90 億円
  - ✧ 自己資金および外部調達 ---------- 約 60 億円

(注)2013 年末の純資産 425 億円に対し有利子負債 92 億円、DEレシオ 0.22 であることから、仮に社債発行等による資金調達を行う場合でも、引き続き良好な財務体質を維持できる見込みです。

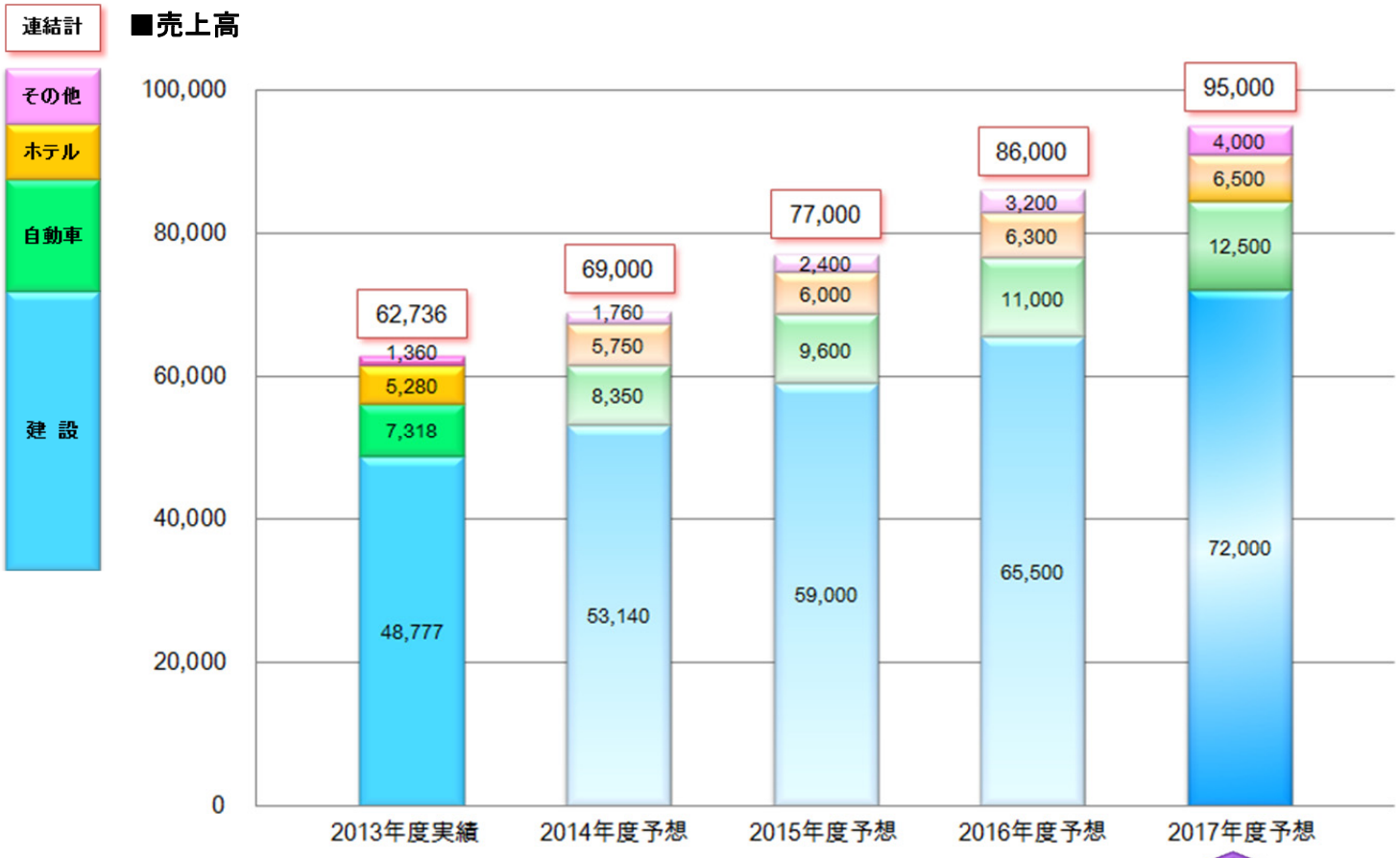
以上

参考資料・・・①【グラフ】連結セグメント別業績予想、②【図】岡部グループ組織図(2014.1.1 現在)

参考資料① 連結セグメント別業績予想 （2014～2017 年度）

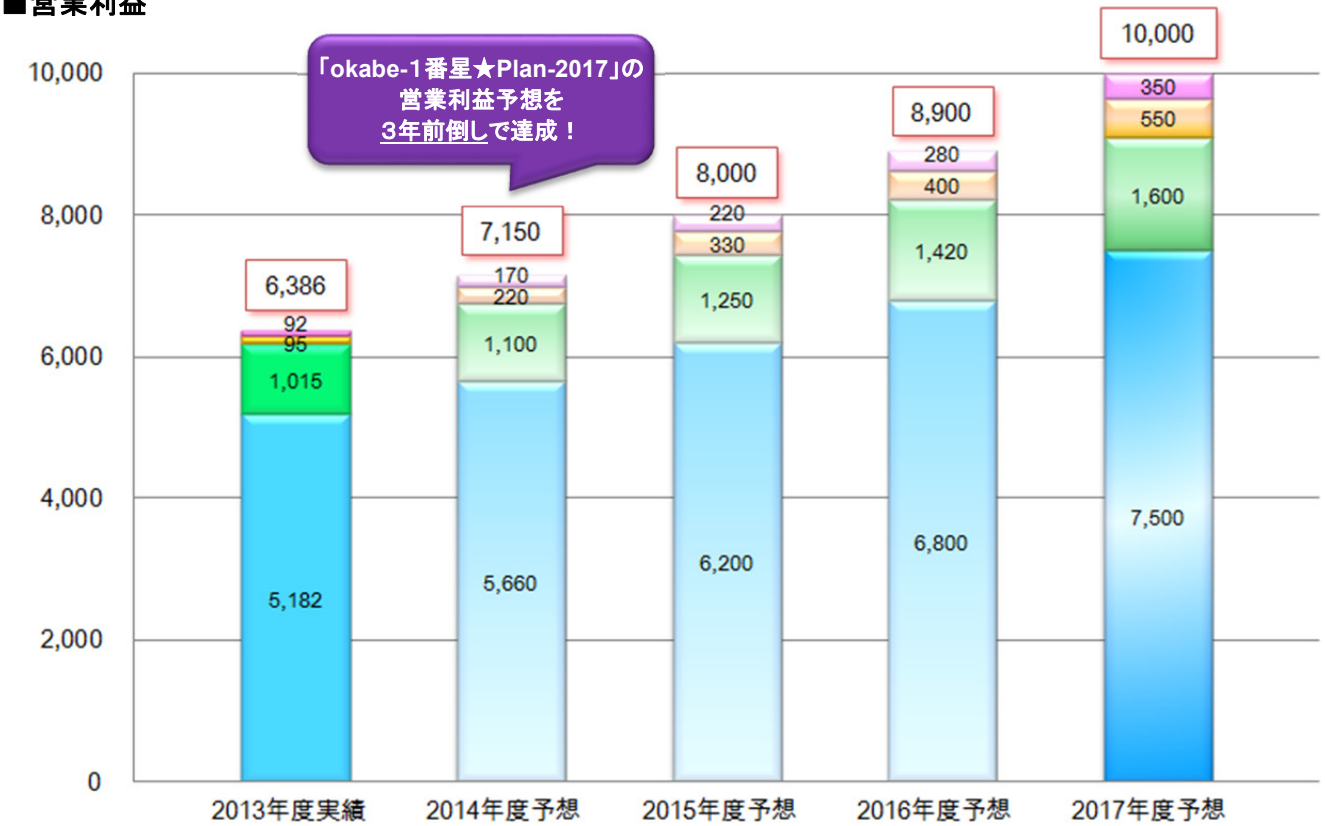
【単位:百万円】

■売上高



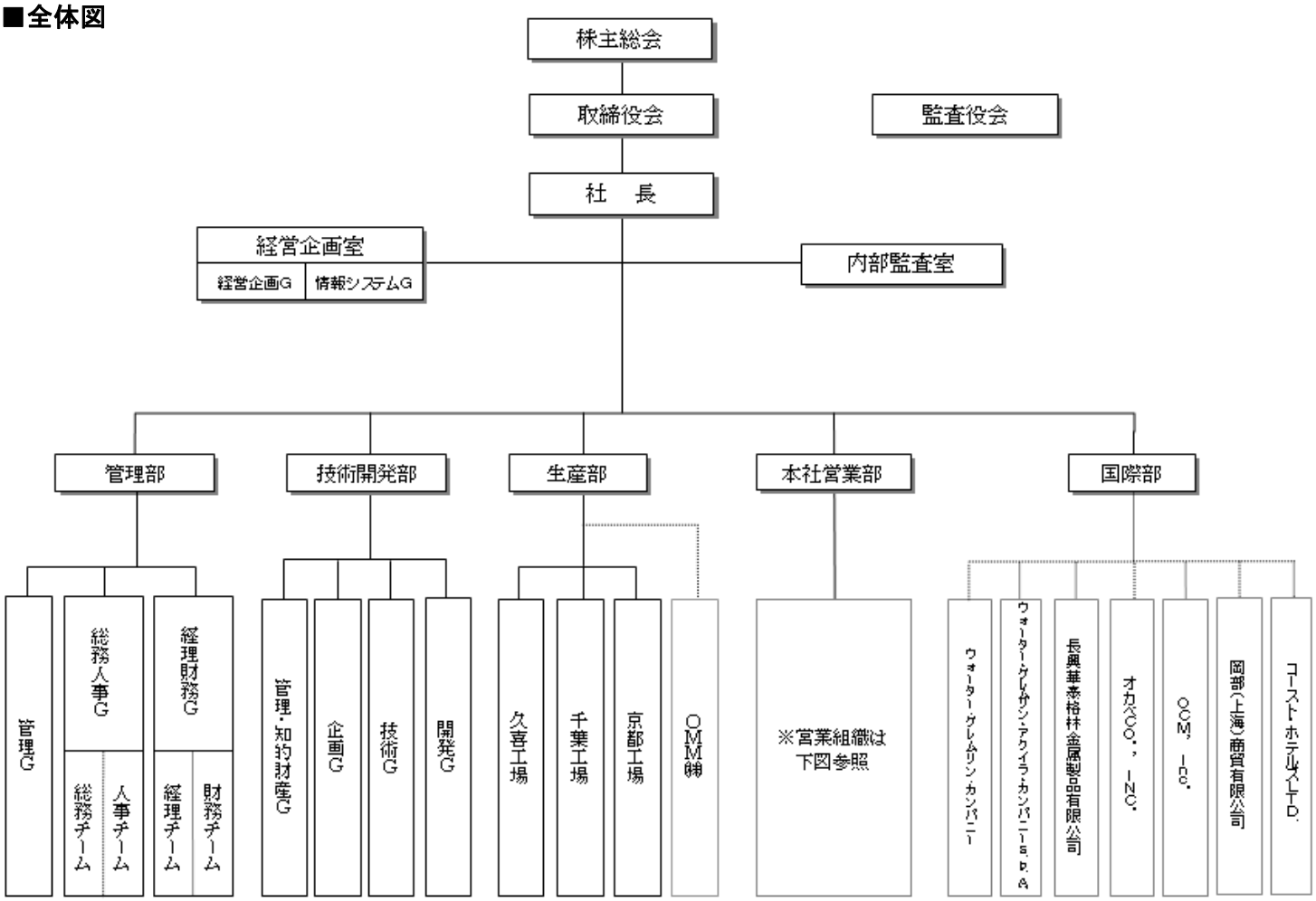
【創業 100 周年】
売上高　950 億円
営業利益　100 億円
経常利益　100 億円の達成！

■営業利益

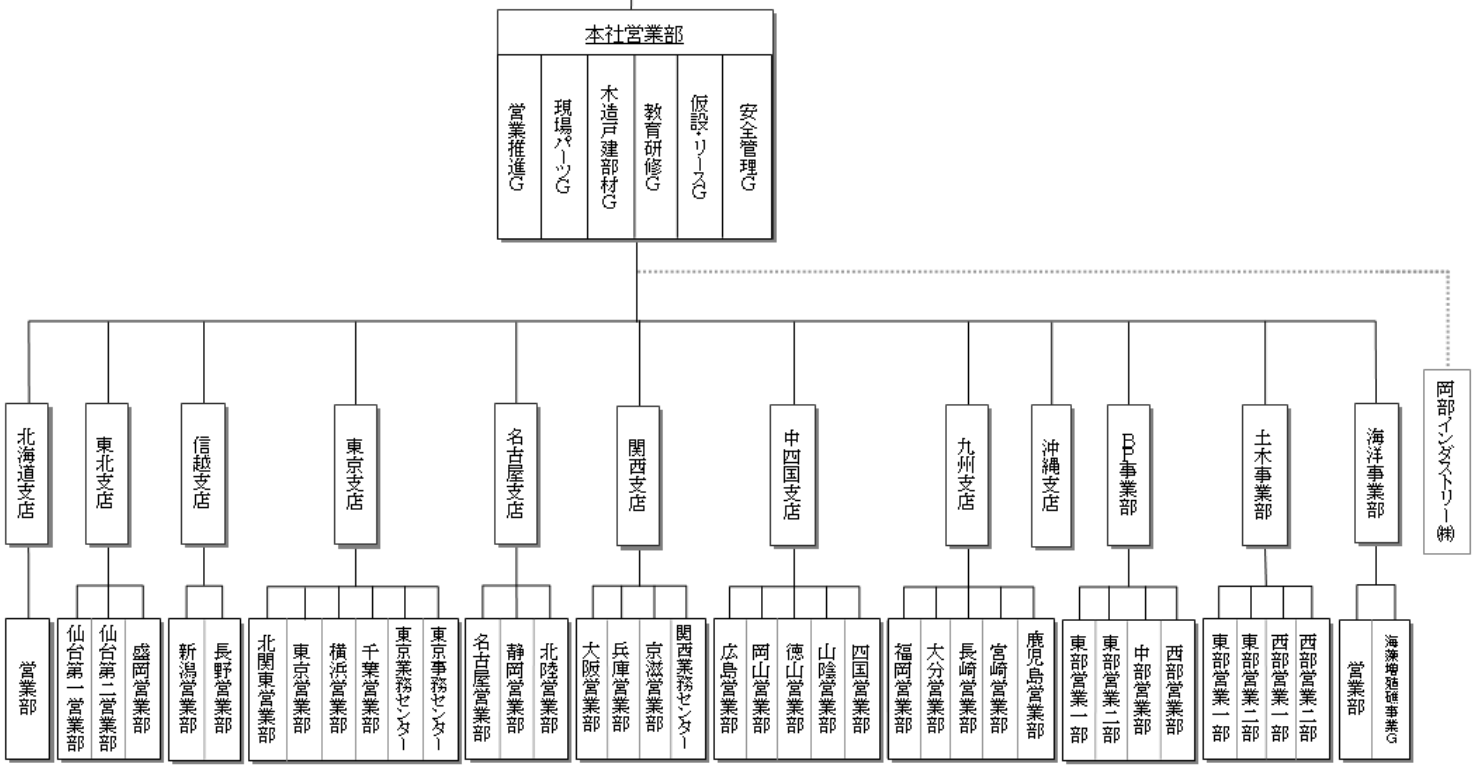


参考資料② 岡部グループ組織図 （2014.1.1 現在）

■全体図



■営業組織



注） 地域事務所、地方工場、海外持株会社等につきましては、一部記載を省略しております。Gはグループの略称です。
本文中では、ウォーター・グレムリン・カンパニーをWG社、OCM, Inc をOCM社と表記しております。